

MDアンダーソン がんセンターにおける 新型コロナ対応



テキサス大学MDアンダーソンがんセンター
白血病科アシスタントプロフェッサー

佐々木 宏治

(ささき・こうじ)

Koji Sasaki, MD, PhD

Assistant Professor, tenure-track Leader,
Section of Chronic Myeloid Leukemia Department of Leukemia,
The University of Texas MD Anderson Cancer Center

本学OBでもある佐々木先生に、米国の現状と、
今後に向けた力強いメッセージをいただきました。



新型コロナ下での病棟回診。右端が佐々木さん

新型コロナにより世界各地の医療機関は大幅な対応を求められています。米国の主要ながんセンターであるMDアンダーソンで働く佐々木宏治さん。世界各地からの患者さんへの診療、次世代シーケンサーを用いた治療戦略立案と人工知能モデル開発の研究、白血病診療の教育と研究指導に従事しています。

「テキサス州ではわずか2カ月間で患者さんが累計4万人、死者数が千人を超える猛威を振るっております」

MDアンダーソンでは研究は感染拡大防止のために緊急停止、診療体制は付き添いの制限や検問の実施に遠隔診療の導入、そして見学や研修受け入れの停止と、ほぼ全

ての方々の生活に大きな影響を与えています。東京医科歯科大学では学部生・初期後期研修と10年以上を過ごし、医師として求められる高い専門知識のみならず、世界に通じる医師としての心構えや姿勢を学び、佐々木さん自身の現在のキャリアの礎になったと語っています。

「辛い時期は必ず終わりを迎えます。大変な最中は果てしなく続くのではと先行きの見えない不安に圧倒されてしまいがちですが、乗り越えた未来を見据えて、現在の最善を尽くしていきましょう」

前向きに希望を持ち続けることが多くの方々の支えになり、社会がさらに前に進む力になるでしょう。